

# 雲(霧)水の非海塩性硫酸イオンと硝酸イオン濃度は雨の中の濃度と比べてかなり高い

図4-5は、図4-3のグラフ(2008年9月、2009年9月の観測点標高に対する降水中の非海塩性硫酸イオンと硝酸イオンの濃度)に霧水の各データをプロットしたものです。霧水の非海塩性硫酸イオンと硝酸イオンの濃度は状況によってかなりバラツキが出ますが、降水の数倍以上の濃度があります。標高が低い美女平では、大気中のエアロゾルの濃度も高くなるためか、降水に対する霧水中の成分濃度の比率も大きくなるようです。

霧水に溶けている非海塩性硫酸イオンも硝酸イオンも、雨の場合と同様、観測点標高が高くなると濃度が低くなる傾向があります。さらに、雨の場合と同様、硝酸イオンの方が非海塩性硫酸イオンと比べて標高に対する濃度の減少率が大きいようです。

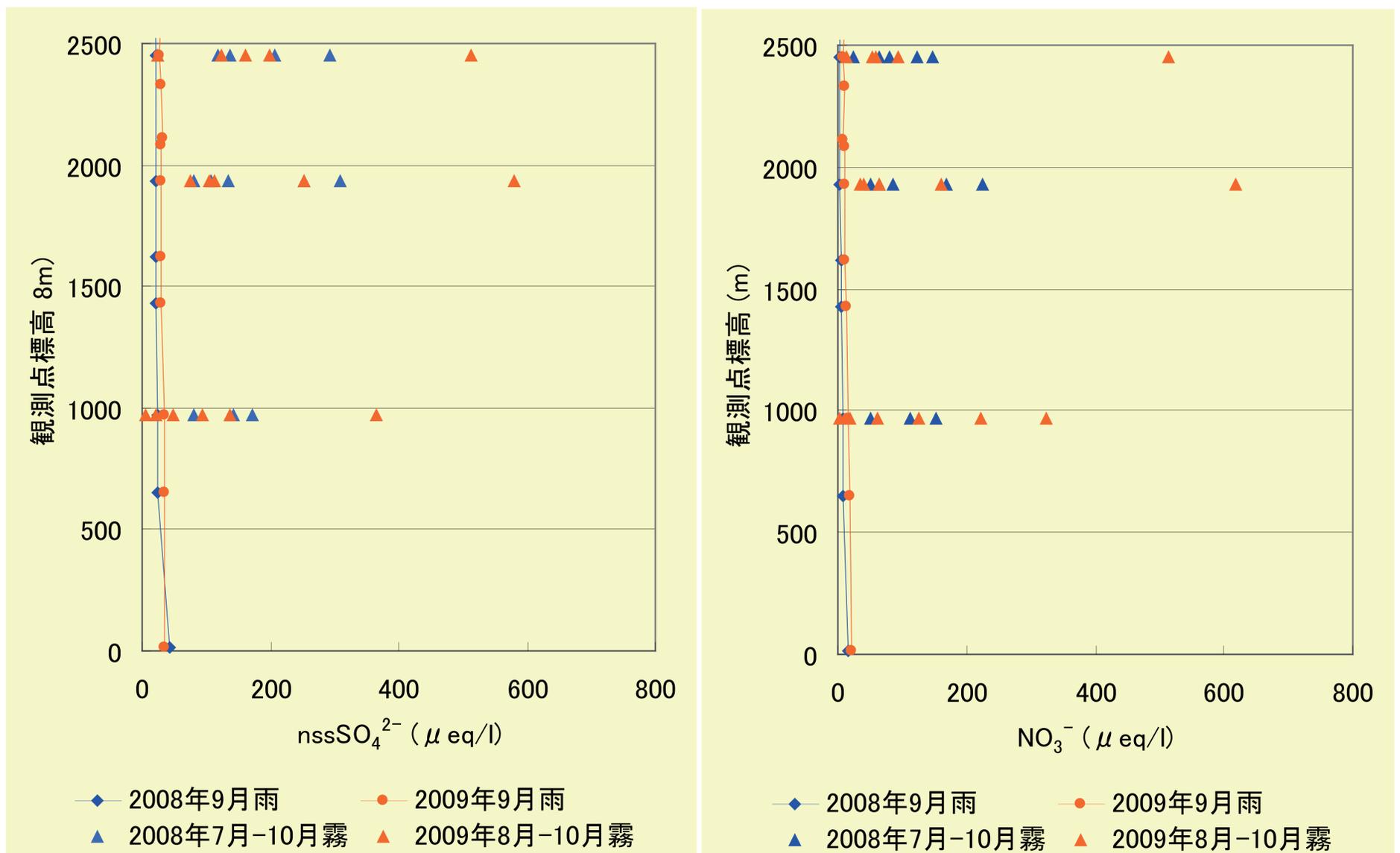


図 4-5 観測点標高に対する降水と霧水の非海塩性硫酸イオン濃度(左)と硝酸イオン濃度(右)

霧水は、2008年は7月～10月まで採取された個々の値、2009年は8月～10月まで採取された個々の値をプロットしてある。降水の非海塩性硫酸イオン、硝酸イオンのグラフは2008年、2009年の9月分のプロットで図4-3と同一である。

## 参考文献

朴木英治、渡辺幸一、立山における酸性雨観測2008、富山市科学博物館研究報告、33、113-120、2010  
富山市科学博物館研究資料